

千里金蘭大学後援会は、学生へのより良い教育の提供と学生生活環境の整備を行いたいという保護者の皆さまからの声をもとに、保護者の皆さまと本学が相互一体となり、学生の修学および課外活動助成並びに教育施設及び福利厚生施設の充実を図るべく、平成27(2015)年4月1日に発足されました。保護者の皆さまには、ご入会を賜りましたことを厚くお礼申し上げます。

昨年度(2020年度)は、後援会大規模事業として、3号館2階食堂用椅子(480脚)を購入いたしました。

また、大学の事業として、床材の張り替えなどの工事を実施し、食堂の全面リニューアルを行いました。木目調の椅子によって以前より食堂の雰囲気明るくなり、学生の皆さんに大変好評を得ています。なお、今年度は、新型コロナウイルス感染防止の観点から、例年5月から6月にかけて開催しておりました総会を、書面議決とさせていただきます。その議案の1つである令和3年度事業計画(案)では、新型コロナウイルス感染防止対策として、備品購入費を計上しております。学生の皆さんが安心して学生生活を送ることができるよう、実習用の消毒液や学内食堂のパーテーション、動画視聴用ヘッドフォンなどを購入予定です。

未だ感染拡大収束の見通しが見えない状況ではございますが、これからも後援会としてできる限り学生の皆さんのサポートを行ってまいります。今後とも変わらぬご支援・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

千里金蘭大学 後援会事務局(千里金蘭大学内事務局)

◇後援会の主な事業内容につきましては、ホームページをご覧ください。
 なお、令和3(2021)年度の事業内容は、年1回開催される総会において決定いたします。
<http://www.kinran.ac.jp/kouenkai/>



私の成長、きっとだれかのために。



年間スケジュール(前期)

2021					
4月	1日(木)	令和3(2021)年度入学式	7月	11日(日)	オープンキャンパス
	2日(金)	新入生オリエンテーション		21日(水)	前期最終授業日
	3日(土)	新入生オリエンテーション		25日(日)	オープンキャンパス
	5日(月)	前期授業開始		26日(月)	授業予備期間(7/26~7/30)
	25日(日)	オープンキャンパス	8月	1日(日)	オープンキャンパス
	29日(木・祝)	祝日授業日		2日(月)	専門科目、保育、教職科目調整期間(8/2~8/4)
5月	2日(日)	学園創立記念日(116周年)	9月	8日(水)	保護者宛成績発送日(予定)
6月	13日(日)	オープンキャンパス		19日(日)	総合型選抜チャレンジAO入試II期
				21日(火)	後期授業開始

※4月中旬現在の予定です。新型コロナウイルス感染拡大状況を踏まえ、スケジュールが変更となる場合があります。大学ホームページなどで適宜お知らせいたしますので予めご了承ください。よろしくお願いいたします。

編集後記

Webツールの併用が一般化する中、専門職の働き方も変わっていくことになると思います。新型コロナウイルス感染症の影響により、大変さを感じることも多い日々ですが、新しい時代の幕開けを生きていること、新しい社会を創り出していくことを意識してみると、また違った世界が広がるかもしれません。

- 01 千里金蘭大学後援会からのご挨拶
学長メッセージ
- 02-04 学科 MESSAGE
- 05 ゼミ探訪 vol.10
- 06 卓球部
- 07-08 部局 MESSAGE
- 09 NEWS
- 10 新任教員紹介
学園へのご寄付・ご支援について
- 11 年間スケジュール
後援会事業のご案内

写真:学生考案メニューを販売



千里金蘭大学 学長
島崎 靖久

新入生の皆さん、御入学おめでとう御座います。皆さんはこの1年間、新型コロナウイルス感染症対策のために、それまでに経験しなかった生活や授業を経験し、不安を持って過ごされて来た事と思います。そして、新学期を迎えて、期待と一抹の不安を持っている事でしょう。大学での学びの姿勢は、入学式でもお話ししたように、「自分で考え、自分で学び、自分で育つ」です。自立できるには、この姿勢が必要であるからです。そして、各学科の専門性のみならず、他のことに対しても、自分で考える力をつけて欲しいと思います。

新型コロナウイルス感染症の経験は、多くの事を我々に示してくれていると思います。感染症の経緯から、ウイルスが姿を変えて生き残ることが示され、これが生存を賭けた進化そのものである事を知りました。また、これまでと異なり、この感染症が瞬く間に世界中に拡散し、変異株を含めて、拡散を防ぐ事が出来ない事も知りました。この感染症の報道から、正確で正直な情報提供が如何に大切かも知られたと思います。嘘も自分勝手な判断も許されません。然し、これまで正しかった事が本当に正しいかにも疑問を持たねばなりません。また、デジタル化や遠隔授業、テレワークなど、私たちの生活の仕方や仕事のありようにも変化が生じており、これも一つの進化と言う事になると思われまます。

一方、世界は新しい展開を必要としています。先日、教職員を対象に実施したSDGs (Sustainable Development Goals) の講演会では、持続可能な世界をめざした展開についてのお話を聞くことが出来ました。皆さん方も、地球上の限りある資源の下で、生き物にとって持続性のある世界の発展に興味を持っていることと思います。この取り組みは、誰一人取り残さない事を目標の一つに掲げています。学生の皆さんにも、新鮮な目で、生き物としてのヒトにとって持続して存在して行くために、何が必要なのかと言う視点から見つめて、学び考えて欲しいと思います。より広く、自由な発想が求められるところです。さて、今年から付属図書館に学長推薦図書コーナーが設けられました。私が推薦してきた図書を私の読後感想を付けて展示してあります。出来るだけ広いジャンルから選びたいと思っていますが、私の専門に身近な分野が多い事は、許してほしいと思います。皆さんも興味があれば手に取ってみてください。

千里金蘭大学後援会からのご挨拶

新入生の皆さん、そして保護者の皆さま、千里金蘭大学へのご入学、まことにおめでとうございませす。また、在学生の保護者の皆さまには、日ごろより後援会活動へのご理解とご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

千里金蘭大学後援会は、保護者により組織され、学生支援を目的として、教育内容の強化、課外活動の充実、学生生活環境の整備などに向け、大学経営の財政的基盤の充実を保護者同士で支え合うことを主な役割としており、今年で設立7年目を迎えます。

今年度も、全保護者のご入会をいただくことができ、感謝申し上げます。

昨年度は、新型コロナウイルスの影響により、入学式および学位授与式の縮小開催や、Webによる授業の実施など、例年とは異なる環境での大学生活に、学生はもとより、保護者の皆さまも大きな不安をお感じになったことと思います。未だ先が見通せない状況ではありますが、役員一同、保護者の皆さまと共に学生の皆さんが安心して学生生活を送ることができる環境づくりに尽力して参る所存でございます。

これからも、ご支援・ご協力をいただきますよう、よろしくごお願い申し上げます。

令和3(2021)年4月1日
千里金蘭大学 後援会会長
水谷 秀子

<https://www.kinran.ac.jp/kouenkai/>

本学ホームページに後援会ページを開設しておりますので、ぜひご覧ください。

食物栄養学科

学科長メッセージ

食物栄養学科長
長井 薫

新しい挑戦で幅広い成長をめざしましょう。

新入生の皆さん、保護者の皆さま、ご入学おめでとうございませす。在校生の皆さんも、新たな学びへの期待を胸に、新年度を迎えていることと思います。保護者の皆さまにおかれましては、日頃よりご支援頂き感謝いたします。昨年来、不安定な状況が続いておりますが、改善の兆しも見えておりますので、皆で協力し、前向きに進んでいければと思います。

食物栄養学科では、今年度から新たな取り組みを始めます。1年生には、海外や環境のことも含めてこれからの管理栄養士の新たな活躍の可能性を俯瞰的に学ぶ講義を、2・3年生には、学外の方とのふれあいや、商品開発、先端研究なども含めたゼミを、さらに、海外経験や農業体験など、幅広い知識や経験の機会を提供します。

学生の皆さんには、積極的に挑戦し、幅広い知識と経験を得る学生生活を送ることを期待します。

学生の活動実績

EATREND LAB. 01



2020年6月初旬から、KUUMA様の指導の下、2チームに分かれて「自分のもやの解消からトレンドを作る」取り組みを行いました。成果として「米粉のビスコッティ」と「そうめんパーティー」というメニュー開発にたどり着きました。「ビスコッティ」は11月7日開催のビレッジマート吹田で販売し、「そうめん」は「野菜たっぷりおろし味噌うどん」として吹田市の飲食店「Tiger Cocco」で期間限定メニューとして提供されました。

保育園での野菜摂取の状況調査と食育の取り組み 02



4年生の卒業研究ゼミとして、2020年7月より、大阪市内の保育園を対象に、幼児と保護者に対し野菜の嗜好と摂取状況のアンケート調査、および食育に関する取り組みを行いました。学生は、自分たちで考え、工夫した教材を作成し、お芝居やクイズを織り交ぜ、その上で感染対策に十分配慮しながら、園児たちに食育を実践しました。また、アンケート結果より、野菜の嗜好と摂取状況の関連などについて解析し、野菜が苦手な幼児への対策案の検討も行いました。

吹田くわい 03



吹田市の伝統的野菜である「吹田くわい」を守り、普及を促進するための調理・加工法の開発を行っていますが、その中で、吹田市と社会福祉法人、本学の協力の下で作成され、2020年4月から販売されている「すいばん」の中に入れる「くわい餡」を開発しました。「くわい餡入りすいばん」はくわいの収穫が季節限定であるため、2021年2月の限定販売となりましたが、好評のため追加販売も決定しています。

学科の願い



「食」を通じて人を笑顔にし、社会に貢献したい。

家族や親しい人達との楽しい食卓、病気の時に元気を与えてくれる食事、子どもの成長を考えた給食など。「おいしい」の笑顔の裏には、「食」に対する繊細な心づかいと、確かな知識と技術があることはあまり知られていないのではないのでしょうか。生活習慣病の増加、超高齢社会など、健康に対するさまざまな課題を抱える日本では、食事指導や栄養教育、食育などの「正しい食と栄養の知識」をもった、みんなに寄り添う管理栄養士の役割が一層重要となっています。千里金蘭大学食物栄養学科では、「食」を通じて人を笑顔にしたい、社会に貢献したいと願う管理栄養士、「キラリ★サポーター」を育てます。

児童教育学科

学科長メッセージ

児童教育学科長
島 善信

次の時代の担い手になるために

新入生並びに保護者の皆さま、ご入学おめでとうございます。心から歓迎いたします。大きな変化の時代であって、多様な人々が共生する社会を実現することは共通の課題となっています。「コロナ危機」の長期化が避けられない環境のもとですが、この4年間で、次の時代の担い手にふさわしい力を身につけていただきたいと思います。

本学科では、地域の子どもたちや学外の方々と交流する機会が数多くあります。学内で実施する「金蘭おやこクラブ」などで幼児と触れあい、近隣地域や幼稚園・保育所・小学校での活動などを通じて直接子どもたちと向き合い、一人ひとりの姿から多くの気づきや学びがあります。子ども支援の、そして教育・保育のスペシャリストとして仲間とともに成長していきましょう。

大学は自ら探究し、自ら道を切り開いていくところです。皆さんの意欲ある学びへのチャレンジに大いに期待しています。そして、皆さんの夢の実現をめざして、私たちは全力でサポートします。

学生の活動実績

吹田市の民話をオペレッタに

01



2020年度後期よりスタートした「総合表現」では、吹田市の民話「釈迦ヶ池の大蛇退治」を学生自らの手でオペレッタとして創作しました。国語・音楽表現などを総合的に捉え、創造力や表現力などを身に付けることをめざし、素材選択・計画・話し合い・練習など、創意工夫しながら作品を仕上げました。地域素材と学生、表現活動が繋がりが合い、地域に根付いた授業を継続したいと思っています。

工夫と愛情に満ちたお買い物ごっこ

02



金蘭おやこクラブでは、コロナ感染の不安なく親子と学生のふれあいの場を何とか実現しようと試行錯誤した2020年度でした。スタッフの綿密な計画と準備、親子と学生の熱意の結集「お買い物ごっこ」は忘れられないプログラムの一つ。参加幼児はうまく言葉で伝えられなくても輝く目で学生とやりとりし、お店屋さんまでのこぼこ道や踏切で喜々と駆け回り、学生手作りの品物を大切に持ち帰りました。

授業観察／小学校との連携

03



小学校教員免許の取得を目指す学生たちのため、近隣の小学校のご協力により、小学校社会科(6年生)の授業観察を行いました。歴史の授業(ノルマントン号事件と条約改正)では、2つの学級の社会活動参加が難しい中、オープンキャンパスなど大学行事の学生スタッフとして参加することで社会の中で人にわかりやすく説明するにはといったことや1年生にとって良いロールモデルとなるにはどのようにするか、といったことを考えるようになり、看護学生として成長していくための自分自身の課題に向き合っています。

学科の願い



子ども一人ひとりと向き合い、子どもの可能性を引きだします。

子ども支援のスペシャリスト育成をめざす千里金蘭大学児童教育学科では、早期からの現場体験を重視、「金蘭おやこクラブ」や「子どもインターンシップ」など、親子とふれあえるカリキュラムが充実しています。高いスキルを持った先生になることに留まらず、子ども一人ひとりと向き合い、理解し、可能性を引き出す。子どもたちのキラリと光る瞬間を支える「キラリ・先生」を育てます。

看護学科

学科長メッセージ

看護学科長
藤田 俱子

学年を超えたつながり

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、保護者の皆さまには心からお祝い申し上げます。看護学科では新入生の皆さんにとって、安心してこれからの4年間の生活を送っていただけるよう感染予防を行いながらクラスで1年生から4年生までのつながりを作っていきます。また、授業も昨年6月から対面式で実施しています。大学キャンパスで友達をたくさん作り、皆さんの大学生活が充実したものとしますことを願っております。

看護学科では、「ココロかんご」をテーマに、人に寄り添い、人として女性として社会に求められる人材育成をめざし、様々な取り組みをしております。学生の皆さんがご自身のめざす看護職となるための学習をしっかりとしていけるよう支援し、新しい学年、新しい生活が充実したものとなるよう願っています。

学生の活動実績

看護ゼミナールでの社会活動体験

01

コロナ禍においても看護ゼミナールIおよびIIの活動を継続いたしました。その中で、学生は自分たちが参加できる活動を探し出し、調整し、参加し、学びを得ています。出身中学校にコンタクトを取って先生方のサポートといったボランティア活動に従事し、数か月にわたり継続して活動を行う、地域の清掃活動に参加するといった活動により社会で生きる自分たちについて考えました。自分たちが学習してきた環境の裏方の苦勞を知りあらためて先生方への感謝の気持ちを持ち、学び舎の清掃活動に参加して人の役に立つことの重要性を感じていました。また、社会では多くの活動が中止となり学生の社会活動参加が難しい中、オープンキャンパスなど大学行事の学生スタッフとして参加することで社会の中で人にわかりやすく説明するにはといったことや1年生にとって良いロールモデルとなるにはどのようにするか、といったことを考えるようになり、看護学生として成長していくための自分自身の課題に向き合っています。



助産師課程学生によるオープンキャンパスでの沐浴指導

02



7月26日のオープンキャンパスで、3・4年生の助産学生14名が全員参加し、沐浴指導のロールプレイを実施しました。指導案とパンフレットの作成後、学生間で助産師役、褥婦さん役に分かれロールプレイを行いました。4年生の助産学生が助産師役、隣の3年生の助産学生は褥婦役です。参加の高校生も真剣に見学されていました。実習室内に沐浴コーナーを3ブース設定し、参加者の座席も距離を保ち、感染対策に配慮しながら行いました。

きんらん保健室 ひだまりでの活動

03



吹田市のみんなの健康展に参加するため、きんらん保健室ひだまりの活動の一環として、新型コロナウイルス感染症対策に関する動画を作成しました。多くの学生から作成した動画での応募があり、その中から「ソーシャルディスタンスについて」「正しい手洗いの方法」の2つの動画が代表として「webみんなの健康展」で紹介されました。

学科の願い



人として、女性としてココロを感じられるように。

プロの看護師に求められるものは、知識や技術だけではなく、何よりもまず、どんな患者さまのココロにも寄り添えること。私たちは、その力を「ココロかんご」と名付けました。千里金蘭大学看護学部では、4年間を通して「ココロかんご」のできる人を育てます。資格のためだけではなく、看護師である前に、人として、女性として、ココロを感じられるように。「あなたがいなくて困るから。」と言われる女性を育てることが私たちの願いです。

ゼミ vol. 探訪 10

看護学科
基礎看護学領域



伊藤 朗子 准教授

研究ゼミのなかで育つもの

今年度の卒業研究は、新型コロナウイルス感染症の流行により、初回のゼミから遠隔形式でスタートとなりました。自宅待機であっても、実習や日々の経験から研究疑問を主体的にまとめるゼミ生をみて、4年間の成長を実感する日々でもありました。コメントをいただいた井森さん、吉本さんをはじめ、大規模災害時の避難所で実施される感染管理を検討した学生、運動効果への気づきを発展させ境界領域期高血圧症の運動習慣獲得について取り組んだ学生、実習時に感じたストレスを客観的に検討し、コミュニケーションスキルに着目した学生など、テーマは様々ですが、感じた疑問を丁寧に検証し、形にすることができました。

ゼミでは、臨床現場の曖昧模糊とした現象を専門職の仲間として話し合うことを大切にしています。最初、学生は単純な正解を探しがちですが、自分の「知りたいこと」は何か、何が明らかで、何が明らかではないのかを討議するうちに、自分のテーマへの探求心が育ってきます。また基礎看護学領域では、慢性疾患を抱える患者の看護、教育、看護技術のエビデンス検証など様々な分野・手法で研究に取り組む教員がおり、異なる視点から意見交換をする機会があります。特に基礎看護学領域のゼミ生や教員が全員集まる発表会では、様々な声を得ることができます。

この先、学生が臨床現場で働くなかで、業務に圧倒され、不安全感や閉塞感を感じることもあるかもしれません。そのようなとき、「目の前の患者さんにもっとできることはないか？」と純粋に仲間と探求した学生時代の経験が、きっと学生さんの助けになると思っています。



ゼミ発表会の様子



ゼミ学生と担当教員



ゼミ発表会後に全員で撮影

ゼミ生メッセージ

構音障害を持つ患者の看護について、コミュニケーションに焦点をあてて卒業研究に取り組みました。特に先行研究の検討では、信頼性や妥当性を吟味して的確に要約することや、看護を幅広い視点で捉える重要性を学びました。ゼミの意見交換で、客観的に自身の研究内容を再考する機会を得たり、研究の指針となる助言を頂いたりしながら、主体性を持って研究に取り組み、研究内容を精査する力を身につけることができたと思っています。

井森 光咲 さん

私の祖母はコロナ禍で高齢者は重症化率が高いと言われていたにもかかわらず、不要不急の外出をしていた時期がありました。若者の危機感の低さが問題視されている中で、高齢者の危機感についてはどうなのかと思い研究のテーマとしました。研究方法の授業ではテストも丸暗記で、実際に研究するとなると不安でしたが、毎週研究内容を発表し、ゼミの先生方が個別に教えてくださり、ゼミ生との質疑応答を重ねて、進めることができました。

吉本 あさみ さん

卓球部

いつも明るく楽しく、やる時はやる!



クラブの活動内容

卓球部は今年の4月から4年生3人、3年生3人、2年生1人、1年生3人の合計10人で活動しています。現在は関西学生リーグ2部でプレーしていますが、1部昇格をめざして、少ない人数ではありますが、明るく楽しく活動しながらも、集中する時は切り替えを大事にして1人1人が目的や目標を持って練習しています。木曜日がオフで週6日活動しています。みんな個性豊かでいつもにぎやかな部活です。応援よろしくお願いします。



[教養教育センター]

教養教育センター長 岩谷 智

新しい発想を生み出す力を養う

本学の教養教育のめざすところは卒業までの4年間をかけて「新しい発想を生み出す力を養う」ことにあります。本を読み、授業を聞いて幅広い知識を身につければすぐに「教養人」が完成するわけではありません。社会の問題を発見し、3学科の専門領域、4学年の経験を融合させつつ解決の糸口を探っていく、そうしたプロセスのなかで必要とされる「真の教養」が何か分かってくるはず。図書館や教員の本当の出番はそれからです。あらゆるものとの関係性のなかで立ち現れてくる教養はみなさんが生きていくための強力な武器となるにちがいません。



本から得る幅広い知識

[研究推進・社会連携センター]

研究推進・社会連携センター長 鎌田 洋一

新組織が誕生

2021年4月1日、地域共創センターは「研究推進・社会連携センター」に改組いたしました。旧センターの目的であった「大学と社会を結ぶ窓口」という役割は引継ぎ、学内の研究資産と、行政、企業、地域活動、および国際連携活動を橋渡しする、新たな役割を担います。本センターでは、「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals, SDGs)」を新たな指針とし、「命」「育ち」「健康」「栄養」「寄り添い」をキーワードとする本学の研究活動を活性化させ、学生・教員を地域活動・国際活動に誘うことを目的としています。どうぞご期待ください。



2019年に参加したイベントの様子

[教職支援センター]

教職支援センター長 黒瀬 哲也

「令和の日本型学校教育」を見据えて

日本の教育が大きく変わろうとしています。教職支援センターも、急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力を見据え、学校教員養成の全学的センターとして機能が充実するよう取り組みを進めます。今、日本型学校教育として国際化、情報化への対応や多様性、包摂性の視点はもとより、小学校では35人学級の実現や教科担任制導入も計画されています。教職支援センターとして、これら教育界の動向を注視して構想を立て、採用試験対策の強化や学校現場体験の充実、英語資格取得、リメディアル教育連携などの具体化に努め、教員をめざす学生を支えます。



豊かな学校現場体験

[教学センター]

奨学金などによる経済的支援

学生の皆さんが安心して学生生活を送ることができるよう、国の行う修学支援新制度、日本学生支援機構奨学金の紹介、地方公共団体や民間育英団体などの奨学金の募集を行っています。また、大学独自の奨学金制度や授業料の延納措置なども設けていますので、学生ハンドブックをご確認いただき、ご質問ご相談は教学センターまでお願いします。奨学金は、制度毎に、募集時期・申込方法などが異なりますので、メール、所定の掲示板をご確認ください。奨学金制度を有効に活用し、充実した学生生活を過ごしてください。



奨学金冊子の一例

[付属図書館]

付属図書館長 登喜 和江

自分探しの場は、3階にある？

大学図書館の3階の図書は、学生にとってはサブ専門書のようなものではないかと思えます。先日、学生のリクエスト図書の書棚がある3階入り口付近から少し進んだところに「ロジャーズ全集」を見つけました。「心理学」の授業で心惹かれて、「卒業までに読破！」を自らに課し、読み進めた学生時代が甦ってきました。「同世代は何に関心があるだろう！」を紐解くのは、学生のリクエスト図書かもしれません。また、現在学修している専門分野の近隣学問をチョット深める図書に出会うかもしれません。3階フロアは、居心地の良い空間です。是非、自分探しに覗いてみてください。



3階にあるリクエスト図書コーナー

[情報処理教育センター]

情報処理教育センター長 小野 淳

オンラインでの授業形態について

新型コロナウイルス感染症の拡大により、多くの授業がオンラインで実施されています。テレビ会議システムなどを利用してリアルタイムの授業を行う形態、メールや学習支援システムを利用して非リアルタイムで行う形態があり、通常の授業とは大きく変わっておりますので、ご不明な点がございましたら情報処理教育センターまでお問合せください。

また、ご自宅にコンピューターがない際には、情報処理教育センターにて携帯できるChromebookの貸し出しを行っています。オンライン授業にぜひご利用いただければと思います。



Google Classroom

[アドミッションセンター]

今、私たちができること

2020年度は入試制度の変更、大学入学共通テストの開始、コロナ禍でのイベントのあり方の模索など、学生募集を取り巻く環境が大きく変革を迎える中、アドミッションセンターでは、Webオープンキャンパスの実施など、今できることに注力をしました。授業動画や学生のインタビュー動画などのコンテンツの充実を図ると同時に、6月からは感染症拡大防止に配慮しながらオープンキャンパス開催に努めました。ご協力いただきました皆さまに改めてお礼申し上げます。2021年度も状況に応じて、柔軟な対応を取りつつイベントを行いますので、引き続き皆さまのご協力をお願いいたします。



オープンキャンパス告知イメージ

[キャリアセンター]

コロナ禍での就職活動

企業の採用説明会が3月1日より解禁となり、新4年生の就職活動がピークを迎えています。この1年間で就職活動はオンライン化が進み、説明会や面接がオンラインで行われるようになりました。この流れは当面変わらず、リアルとオンラインを併用した活動が継続される見込みです。また、就活ルールに沿わない採用活動も進んでおり、2月1日時点での内定率が前年より数値が高いという調査結果もあることから、早期の採用活動が加速すると予想されます。キャリアセンターでは、4月以降もセミナーを通じて学生の皆さんを支援してまいります。



学内セミナーの様子

令和2(2020)年度 学位授与式報告

3月15日(月)に、佐藤記念講堂において令和2(2020)年度学位授与式が執り行われました。始めに、食物栄養学科65名、児童教育学科38名、看護学科107名、計210名の卒業生を代表して各学科の総代が登壇し、島崎学長から学位記が授与されました。続いて、4年間を通じて最も成績が優秀であった学生に与えられる「商議員賞」、学業を含めスポーツや社会貢献に優れた活動に取り組んだ学生に対して与えられる「佐藤賞」の授与が行われました。関係団体各賞・記念品の授与は以下のとおりです。

学科	食物栄養学科	児童教育学科	看護学科
総代・商議員賞	糟谷 美穂 さん	小田 彩音 さん	高倉 美玲 さん
佐藤賞	篠崎 文子 さん	岸本 結衣 さん	天谷 美空 さん
関係団体各賞授与	半野 依利菜 さん (全国栄養士養成施設協会)	池島 加菜 さん (全国保育士養成協議会会長賞)	橋爪 菜衣 さん (日本私立看護系大学協会)
	谷 朋香 さん (日本フードスペシャリスト協会)		宮井 愛佳 さん (大阪府看護協会会長賞)
門出の誓い	松井 美憂 さん	浦地 美由起 さん	西野 美咲 さん

島崎学長からの式辞に続いて、門出の誓いとして、各学科の代表から、4年間学生生活を支えていただいた方々への感謝の気持ちと今後の抱負が述べられました。新型コロナウイルス感染防止のため、規模を縮小しての開催となった学位授与式でしたが、保護者の皆さまおよび卒業生の皆様のご協力により、無事終了することができました。

卒業生の皆さん、この度はご卒業おめでとうございます。皆さんの今後のご活躍を、本学教職員一同祈念いたしております。



令和3(2021)年度入学式報告

令和3(2021)年度入学式が4月1日(木)に佐藤記念講堂で執り行われました。食物栄養学科95名、児童教育学科53名、看護学科101名、計249名の新入生(編入学生を含む)が、千里金蘭大学学生としての第一歩を踏み出しました。

厳粛な雰囲気の中で式が挙行され、食物栄養学科・住吉 知夏さん、児童教育学科・石井 里歩さん、看護学科・金田 彩花さんによる新入生代表宣誓が行われました。続いて学長入学許可宣言、学長式辞があり、新入生たちは改めて気持ちを引き締めている様子でした。

今年度の入学式は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、保護者の方々および関係者の方々のご臨席を見合わせていただき、縮小しての開催となりましたが、当日は天候に恵まれ、桜も満開を迎える中、キャンパス内では新入生の晴れやかな笑顔であふれました。千里金蘭大学に入学されました新入生の皆さん、ご家族の皆さま、おめでとうございます。



新任教員紹介

- ① 学位 ② 研究テーマ(専門分野)
- ③ 千里金蘭大学での主な担当科目 ④ 千里金蘭大学での抱負

食物栄養学科



田路 千尋 准教授

①博士(学術)②食育・栄養教育 ③栄養教育論 ④この時代を生き抜くために自ら考え行動できるよう、一緒に頑張っていきたいと思います。

看護学科



合田 友美 教授

①博士(教育学) ②小児看護学 ③小児看護対象論 ④子どもとその家族の最善の利益とは何かを、一緒に考え創造していきたいと思います。



平尾 明美 教授

①博士(健康科学) ②クリティカルケア看護(救急看護) ③成人看護対象論 ④予測する看護について学生と一緒に探求したいと思います。



松本 宙 助教

①修士(看護学) ②小児看護学 ③小児看護援助論演習 ④小児や家族への看護について、学生の皆さんとともに考えていきたいと思います。



宮本 圭子 助教

①修士(公衆衛生学) ②行動変容 ③公衆衛生看護学実習 ④長年の行政保健師経験を活かし学生の皆さんと共に考え、学びたいです。

学園へのご寄付・ご支援について

昨年度(2020年度)は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大に伴い、緊急事態宣言が発令され、大学、中高でも臨時休校の措置が講じられました。その結果、教育の質を確保するため、WEBなどの活用による遠隔授業などの実施を行うなど、様々な対策がとられました。このような厳しい社会情勢の中、寄付募集においては、当初予定しておりました創立115周年記念寄付金を主とした募集活動を延期とさせていただきました。

今年度(2021年度)は、創立115周年を迎えた学園が、更なる充実・発展を遂げるために、寄付の対象を法人・企業などに拡大して、精力的に募集

活動を行う所存です。寄付の決裁方法においても、多様化を図り、従来の郵便局での振込みに加え、カード決済、コンビニ決済、Pay easy 決済などを導入しました。詳細につきましては、学園ホームページなどに掲載させていただいております。

昨今の厳しい経済情勢の折柄、誠に心苦しいお願いとは存じますが、引き続き、ご賛同を賜りますようお願い申し上げます。

金蘭会学園 法人事務局 総務部 TEL.06-6872-7703 FAX.06-6872-7707
本学園ホームページご寄付のお願いURL
<https://www.kinran.ac.jp/hojin/contribution/>